



トヨタが誇るコンセプトカー「TOYOTA Concept-愛i」。感情や嗜好などドライバーの情報をビッグデータに蓄積、AI（人工知能）を駆使して安全・安心、さらにはドライバーが関心を抱きそうな話題やニュースをAI側から話しかけるなど、まさにSF映画に登場するようなスマート・カー。コンセプトは「人を理解する」。

恒例の「東京モーターショー」が今年も10月28日～11月5日に、東京で開催。世界の潮流にいち早く乗ろうと今回各社ともハイブリッド車（HV）、電気自動車（EV）、モノのインターネット（IoT）を謳った次世代カーを前面に押し立ててアピール。コンセプトカーを中心に、気になるクルマを検証しながら、メーカー各社の思惑、そして戦略を垣間見て行こう（取材・本誌編集部）



トヨタ

「TOYOTA Concept-愛i RIDE」。TOYOTA Concept-愛i シリーズの一員で、コンパクトさに主眼を置いた2人乗りのユニバーサルEV。車椅子のドライバーへの配慮がなされ、またカーシェアリングでの需要も想定している。

「トヨタ車体 ワンダー・カプセル・コンセプト」。系列会社のトヨタ車体が独自に開発したコンセプトカーで、カーシェアリングを意識、2人乗りで随所に「オシャレ」と「遊び心」を詰め込んだコンパクトカーだ。



LS+ Concept



「LS+Concept」。トヨタの高級車レクサスの次世代コンセプトカーで、厳密にはレクサス・インターナショナルによる出展。自動車専用道での自動運転技術「Highway Teammate」を搭載、2020年の実用化を目指すという。



「GR HV Sports Concept」。ハイブリッド・システム「THS-R (TOYOTA Hybrid System-Racing)」を搭載したFR/2シーター・スポーツのコンセプトカー。伝説の「トヨタスポーツ800」(トヨハチ)からのデザイン・コンセプトを匂わせるフォルムだ。

コンセプトカーがズラり！ キーワードは「HV」「EV」「IoT」

TOKYO MOTOR SHOW 2017
BEYOND THE MOTOR

東京モーターショー2017

いすゞ

「FD-SI」。近未来の宅配車を意識したコンセプトカーで、ハニカム（蜂の巣）構造をデザインに取り入れたのが特徴。車体横の六角形には荷物用の専用ボックスをイメージ。

ダイハツ



「DN PRO CARGO」。小回りと使い勝手のよさを追求した配達用のコンセプト軽自動車で、1950～60年代に活躍したオート3輪車「ミゼット」(後方)の、いわば「次世代版」。車体左サイドには大きなドアを配して荷物の積み下ろしを便利にした他、車体後部にはリフトも設置、車椅子の収納も可能としている。



日産

(上)「NISSAN IMx」。ドライバーが一切運転しない完全自動運転を目指すEVコンセプトカーで、「日産リーフ」に採用されている技術「プロパイロット」をより進化させている。クルマ任せのドライブができる「プロパイロットドライブモード(PDモード)」を選択した場合は、ハンドルが収納され、ドライバーは思い切りリクライニングできるという。また1回の充電で600km走行できるのも特徴だ。



三菱



「日産リーフ コンセプト」。「日産リーフ」をよりスポーティにしたコンセプトEVで、サスペンションを強化、コンピューター制御で加速感をアップできるという。

「MITSUBISHI e-EVOLUTION CONCEPT」。走りを重視したSUV(スポーツ用多目的車)のEVコンセプトカーでAIを搭載、完全自動というよりはサポートに回り、運転をより楽しめるようになるのがウリ。学習能力で運転技量を把握し、ドライバーをアドバイスする「コーチング機能」を備える。





「Honda Sports EV Concept」。1960年代に同社が世に送り出した名車「S600クーペ」を髣髴させるフォルムのEVスポーツ・コンセプトカー。「操る喜び」のテーマらしく、プラットフォームを低重心タイプとし、電動パワーユニットは走りに軸足を置いた味付け。もちろんAIも備え、独自の「Honda Automated Network Assistant」技術を盛り込んでいる。



ホンダ

(上)「Honda NeuV」。いわば街中を手軽に移動するEVコミューター・コンセプトで、完全自動運転システムも搭載、カーシェアリングも念頭に置く。

(左)「Honda Urban EV Concept」。こちらは、いわば都市型EVで4人乗り。同車はこれらEVを2019年に欧州市場で販売を開始する計画だ。

マツダ

「マツダ 魁（カイ）CONCEPT」。
a NeuV」。ディーゼル・エンジンのようにガソリンを圧縮点火、燃費を大幅に向上させた次世代ガソリン・エンジン「SKYACTIV-X」、次世代車両構造技術「SKYACTIV-ビークルアーキテクチャー」を盛り込んだコンセプト・ハッチバック。



スバル

「SUBARU VIZIV PERFORMANCE CONCEPT」。次世代スポーツセダンのデザイン・コンセプトで、走りにこだわる同社の「DYNAMIC×SOLID」ポリシーを踏襲、フェンダーなど要所にカーボン素材を採用、アイサイトやレーダー、高性能GPSも盛り込む。



ヤマハ



「CROSS HUB CONCEPT」。近年、東京モーターショーに4輪車のコンセプトカーを展出する同社だが、今回はSUVモデルに挑戦。車体後部の荷物スペースにバイク2台を収納できるのがミソ。

スズキ



メルセデス(独)



「イ・サバイバー」。EVの四輪駆動車でオフロード性能を重視したコンセプトカー。2人乗りでオープントップ、バギー・カーを連想させる小型なフォルムが特徴だ。

「ヴィジョン EQ フォーツー」。独メルセデスベンツの関連会社スマートが開発した2人乗りの小型EVコンセプトカー。もちろん、カーシェリング需要を強烈に意識。